



若者の定住と働きを考える 地域円卓会議 in 中城村

中城の小中学生×地元琉球大学、
様々な交流が産み出す波及効果についてみんなで考える

実施報告書

日 時： 2018 年 1 月 11 日（木）18:00-20:30
場 所： 吉の浦会館 ホール（中頭郡中城村安里 187-1）
主 催： 国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構、
公立大学法人 名桜大学 地域連携機構、中城村
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】若者の定住と働き方を考える in 中城村



■日 時：2018年1月11日（木）18:00-20:30
■場 所：吉の浦会館 ホール
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■主 催：国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構
公立大学法人 名桜大学 地域連携機構
中城村

■来場者数：26名（行政・NP0・福祉機関・企業）
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NP0 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：国立大学法人 琉球大学 総合企画戦略部
地域連携推進課

論点提供

新屋敷 幸龍 氏（中城村役場 企画課 企画調整係長）

中城の小中学生×地元琉球大学、 様々な交流が産み出す波及効果についてみんなで考える

中城村では、「住みたい村、とよむ中城」という将来像の実現に向けて、様々な施策を実施しています。その中でも子育て・教育分野に関しては、今後の中城村を担う人材を育てるという観点から最重要事項の一つであると考えています。

今回の地域円卓会議では、本村に琉球大学があるという点に着目し、児童生徒と琉球大学生間における様々な交流が産み出す波及効果について皆様と考察しながら、児童生徒が「将来大学に行って勉強したい」と思えるような、琉球大学が近いという強みを活かした教育環境づくりについて議論をしたいと思います。

センターメンバー



新屋敷 幸龍
中城村役場
企画課
企画調整係長



福田 英昭
琉球大学
教育学部 教授
教育学部附属
教育実践総合
センター長



平敷 りか
中城村立
中城中学校
研究主任



伊保 こはる
中城村立
中城中学校
2年生



伊野波 盛之
中城村
PTA 連合会
会長



熱田 脩
琉球大学大学院
教育学研究科(専
門職学位課程)
高度教職実践専
攻 1年次



安富 智希
琉球新報
中部支社 報道部
記者

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 琉球大学教育学部の現状と課題
 - ✓ 以前の教育実習は大学 3、4 年の 1 カ月間だけだったが、国の方針で時間が増えた。現在の教育学部の大学生は 1~4 年まで色んなレベルの教育実習を行う。2 年生では教職体験 2 として、10 名規模で、中城村の小中学校に授業を見せてもらった
 - ✓ 現在、教育学部の大学生は 1 年 140 名、2 年以上は各 190 名いる。約半数が教員になる。農学や工学部など他の学部からも教員になるため、琉球大学（以下：琉大）は約 100 名強の教員を毎年輩出している
 - ✓ 教育実習は母校に行くことをベースに考えるが、県外や工業高校出身の学生などの場合、新たな実習校を探すこともある。また、琉大には附属小中学校があるので、そこで 1~4 週間の教育実習を行うこともできる
 - ✓ 教育実践ボランティア 3 という新たな科目を作った。その目的は、大学生に子ども達の笑顔や活躍する姿など、色んな部分を見せることや、学校と地域の協力した企画を見せることである。放課後の子ども達の学びの場に大学生を送り、地域の方が講師をするフラダンスやハガキの書き方、料理教室等で一緒に楽しみ、一緒に学びながら、子ども達の学びをお手伝いしている
 - ✓ ボランティア等の自由参加の募集をすると、一番初めに手を上げる学生は、教員採用試験を受かった 4 年生である。彼、彼女らは、現場の子ども達に早く会いたく、大学の単位も取り終え、時間も空いている
 - ✓ 大学の講義の一環として大学生を派遣する利点は、保険に入っていること。つまり、講義中の活動であれば、学内外でも、自分がケガをした、物を壊した時等に、補償することができる。ただ、どこまで講義にできるのか、実りある講義に繋がれるかが課題である
 - ✓ 講義の一環として大学生を送り出す時、評価を付けることが受け入れた小中学校の先生の負担を高めている。その為、評価を簡単な評価表だけに絞り込んでいる。また、最後の報告書も琉大の教員が書くなど、受け入れた先生の負担が減る工夫をしている
- ✓ 大宜見小中学校の子ども達をバスに乗せて、琉球大学博物館・風樹館の見学と一講義を受けてもらった
- 中城村の特徴
 - ✓ 沖縄県が定める中城村の市街化区域は 8%（南上原のみ）で、残りの 92%（市街化調整区域）は市街化の進展を調整・抑制し、自然環境の保全地域となる
 - ✓ 人口増加率：沖縄県内で 3 位
 - ✓ 現在の人口：20,800 人。琉球大学が移転してきた 1985 年頃は、人口 10,700 人
 - ✓ 中城南小学校は年々生徒数が増えている（H29 年：671 人）。だが、他の学校は、若干減少傾向にある（H29 年、中城中学校：438 人、中城小：331 人、津覇小：260 人）
- 中城村は H27 年度に人口ビジョン及び総合戦略を打ち出して、アンケート調査を行った。その結果、転入の理由として「琉大周辺の整備された環境が良い」と答えた方は南上原では多いが、他の地区では少ない。また、「子どもの教育環境のため」と答えた方も多くなく、琉大を活かせておらず、もったいないと考えている
- 中城村の総合戦略の中で子育て支援、学習支援等で琉大生を活用することがうたわれている
- 小中学校のほとんどの教員は、教育実習生（以下：実習生）が来ると、「また仕事が増える」という印象を最初は持つ
- 中城ウイークの取材をする中で、琉大の名前が出てきたのは一回ぐらいしかない
- 中城村には人口の 5%程度にあたる 940 人の琉球大学生が住んでいる。これだけ多いのは、西原町と宜野湾市ぐらいである

事例の提供

- 沖縄県の高校・大学の進学率（39.2%）は全国で最下位。最も進学率の高い東京都（66.5%）との差は 27.3%。このままで良いのか、中城村としては考えていく必要がある
- 地域に大学生をボランティアとして出すと、大学の単位としては難しくなる。ボランティアは「参加する意欲」がベースであって、それに大学の教員が評価を付けるのはふさわしくないし、反している
- 中城村と琉大の包括協定は結んでいるが、どう取り組むべきかが進んでいない。上手く活用していきたい
- 中城村と琉大は近いけど遠い関係と感じている
- 以前、実習生を受け入れた時、教壇に立つこと自体、ハードルが高いように感じた。日頃から中学生と関わっていると、コミュニケーションも取りやすくなり、もっと有意義な実習になると思う

- 昔の教育実習は1カ月間で、教師の仕事が全くわからなかった。大学1年からの教育実習は良い仕組みだと思う
- 実習生にも差がある。生徒とうまくコミュニケーションを取れている実習生は、先輩から色んな情報を聞いて、学んで、実習に入っている

視点の提供

- 大学に行くという選択肢がなかった人も、大学生と関わる機会があれば選択肢が増えたかもしれない
- 中城中学校の学生は琉大の敷地内に入ったことがない人もいる。大学講義の見学や、大学祭にも行ける機会があれば良いと思う
- 継続的に、教師には色んな仕事があると分かれば、教師になってから、ギャップで辞めることもなくなるのかな
- 中城村側の要求や足りていない所を、一つずつすり合わせて、琉大の科目になると良い
- 最近は共働き世帯も多く、段々とPTAの担い手が少なくなっているため、朝の読み聞かせ活動などのPTA主催の活動をPTAだけで見るのは難しい。そのため、大学生も遊びながら交流をし、PTA活動の啓蒙活動ができればと思う。また、PTAの両親の方々との交流や、子ども達と話すキッカケにもなる
- 大学生に勉強を見てもらうだけでは、その人がどういう人か、あまり知ることはできない。部活や護国丸まつりなどの地域行事にも参加して、地域の人や児童生徒と触れあって欲しい。色んな話ができて、大学生のことを知ることができる。また、大学生に地域の活動を知ってもらえ、地域の人も、大学生を知ることができる
- 琉大のサークル活動の発表を、中城村が主催するまつり会場等で行ってはどうか
- 大学生も地域の同じ住民としての繋がり、それがベースとしてあり、同じ地域にいる事を共有する必要がある
- 中城南小等で、年に一回程度、科学講座を行っているが、単発ではなく、常設で、日々交流できる科学クラブのような所があると、より琉大の名前が近くなるかと思う
- 学校・保護者・教育委員会・大学の4者が平場で集まる事をしないと、子ども達を安定して支えられないのでは
- 子ども達の声や、誰かのニーズがある所から始めると意外と大人は動き、プログラムが進むのでは
- 教育実習生のプログラム案
 - ✓ 中城中学校からの要望として、放課後の補習とテスト採点、部活動の指導、授業中のサポートがあった。これを大学生の成長レベルに合わせて取り組めるプログラムが作れたら良い
 - ✓ 学校現場の受け入れの難しさは、3週間等の短い期間でまた一からのスタートを繰り返すこと。もっと長ければ、実習生も慣れてくるし、生徒も実習生のことを理解してくる。お互い色々と分かって来て、うまく進むこともあると思う
 - ✓ 大学1~4年生までの4年間、同じ子をみて、成長過程を見守れるようなプログラムが必要だと考えている
 - ✓ 実習生が担当する学年の生徒を一年間継続して見守れるような、繋がりがあれば、授業だけでは知り得ない、未来や将来の話し等ができると思う
 - ✓ 4年生と1年生を組ませて、4年生が1年生の指導をすることで、1年生も安心して現場に入れるし、4年生も後輩に伝えることで、育つ部分もあるかと思う。また、先生の負担も下がってくる
- 放課後の学習支援は支援員が行うが、予算が無くなった時は、教員が放課後や長期休業の補習は行うことになる。そこを教員志望の大学生がみってくれれば、後輩の育成にもなり、小中学生にとってもメリットになる
- 新聞社は、中城村と琉大の繋がり（話し合いの場から）の記事を取り上げ、仲が良いというイメージ形成を図ると、それが更なる参画を生むのではないかと
- まずは、大学と地域のように団体と団体の繋がりを考えるより、大学生と身近な関係性から始めてみるのも良いのでは
- 近くてもお互いを知らないため、中城村がPTA会長や大学関係者、地域の方などに呼びかけて一斉に集まり、情報を共有化する。また、ミスマッチを無くすために、行政は話し合いの場をホストすると良いのでは

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- まずは行政・大学・住民・小学校・中学校・PTA 他、利害関係者の信頼関係構築を
- それぞれの利害関係調整は個別化せずに、行政がホストに入り、みんなで行うこと
- これまでの先生が教育実習生をお世話するという慣習にとらわれず、利害関係者同士でお互いの負担の少ない持続可能な事業に仕立てること

■参加者によるサブセッション

「中城の小中学生×地元琉球大学、 様々な交流が産み出す波及効果についてみんなで考える」(原文のまま)

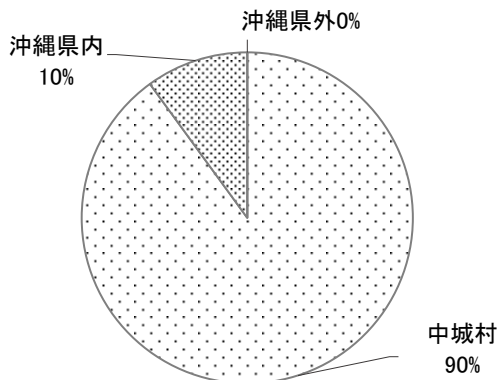
- ① ・教職専以外の学生が小中学校生徒との関わった方がよい
 - ・祭りでの学生との関わり
 - ・部活動指導 サッカー ハンドボール
 - ・教員と教員との交流・連携
- ② SNS を活用して情報を発信！！
- ③ 大学⇒交流⇒地域⇒企業
- ④ ・大学のサークル・ゼミ単位での地域イベントの参加
 - ・行政側からの声かけ
- ⑤ ☆地域の子どもと琉附属小中との交流(大学の開放とか)
 - ☆学生がもっと地域活動に関わりを持ってほしい
 - ☆大学の地域貢献活動も地元から！
- ⑥ ・夏休みなどを利用して公民館で子どもたちに学習支援
- ⑦ 村の行事に大学生も参加してもらうような呼びかけ等をする。
- ⑧ 1.授業の設計段階で、実習学生、受け入れ、学校の先生、生徒を入れて意見を聞く仕組みを作る
商品や建物、教授のみではなく、学生やユーザーの意見を入れる場を設ける
(コンカレント エンジニア C.E.という)
2.学生が健康測定している
(名桜大) ⇒自分の(学生の)経験になる
3.大会時などにも参加している部活生
4.継続のためには、win-win が必要
5.オープンキャンパス時の交流
6.県外の子どもたちと交流
- ⑨ ・完全なw・wは見つからない。
 - ・子どもと関わるイベント。
 - ・大学側はインターンだけではなく地域塾のような教え場を通い地域と関わる
 - ・妥協はなかなかないのでひとまず関わる場をつくる 交流する雰囲気づくり
 - ・生徒のインターンは目標・成果などが難しい。

若者の定住と働きを考える地域円卓会議 in 中城村 参加者アンケート集計

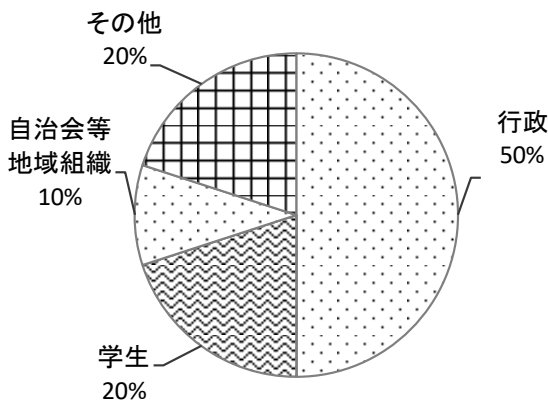
◆概要

- ・日時：2018年1月11日(木) 18:00-20:30
- ・場所：吉の浦会館 ホール
- ・着席者：9名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ・参加者：26名(アンケート回収10名、回収率38%)

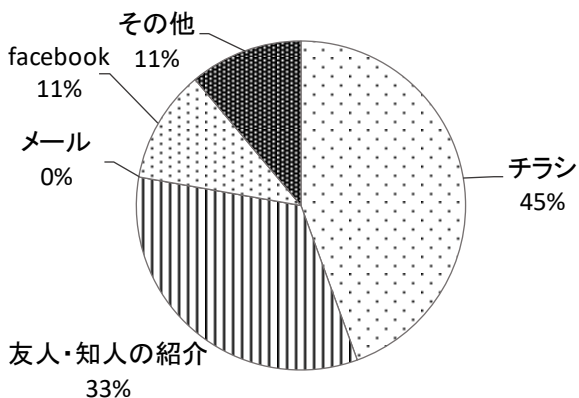
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.2 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足していない	1.不満足
3名	6名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・中城村が求めていることや現状を知ることができ、琉大生としてどういう風に中城村と関わっていけば良いのか分かった気がしました。

中城村が琉大との交流を望んでいることや大学生を歓迎していることが意外で驚きましたが、これからはもっと地域の行事などにも参加していこうと思いました。

- ・教育というテーマに限られたため、話しやすく・聞きやすかった。

中学生の意見が聞けたことが良かった。連携するには、それぞれの利害関係が難しい時があると思っていますが、イスの話でよいイメージが持てました。

- ・いろいろな意見が聞けて良かったし、自分たちがどこをどうしたらいいのか、明確に理解することができた。

(4. 概ね満足)

- ・中学生の声をきけてよかった。1番良い意見だと思った。
- ・色々な立場の人の意見を聞くことができてよかった。(現場の声)
- ・中城村の強みを再認識できた。行政がこういった場に出て、意見をもとめるのはステキだと思った。
- ・地域、琉大、行政の連携により、今後の中城には多くの可能性があると感じた。
- ・いろいろな角度、立場からの意見がきけた。平良さんの進行がとてもよかった。すご

い！！！！とても充実した会議になった。

- ・ 何が負担になのか受け入れ側として明確になった。

(3. ふつう)

- ・ 形式としては面白い

6. 印象に残ったこと

- ・ 大学と子どもの関わり合いが学校を通してないことが拡張性を狭めている。
子どもはどこからでも学べる。別に学校を通さない行事で子どもと関わらせる立場をもっと設けるべき。特に行政が。問題の多発している、市街地の件で子どもの居場所が近くに必要だと感じる。
- ・ 大学生が地域活動に参加し、地域の人々と交流する機会があると良いと思いました。
- ・ 中城村の子ども達が琉大へ行く。琉大生が中城に来る。お互いを知ることができたと思いました！中学生すごい！でもそれを子どもに任せるのではなく、行政が動いてくれるといいなと思います。(窓口の設置、把握、とても良いと思いました。)是非！
- ・ 地域も琉大も行政も相互に利用し合える環境を整えたら面白い。(村行事に発表する場として琉大にオファーをかける)(サークルやゼミ単位で地域と交流)
- ・ ボランティアではなく単位制で教育実践をするとよい
- ・ 行事に大学生を呼んで参加してもらったり、サークルやゼミ単位で中城との関りを持つということはすぐにでもできそうだと思います。
- ・ 子どもが育つことが先、教育の養成は後という価値観
- ・ 小・中学生が大学に足を運ぶ行事。大学生が地域行事に足を運ぶというきかいがあればいいと思う。
- ・ 人と人をつなぐむずかしさといろいろな気づきから光をみたような気がします。

(写真) 会場の様子



若者の定住と働き方を考える

地域円卓会議 in 中城村

地域の関心をもつ社会課題について共有する場

2018.1.11(木)
18:00~20:30
吉の浦会館ホール

中城の小中学生

X 地元琉球大学

様々な交流が産み出す
波及効果について
みんな考えてみる

学生が
2018.3
参加(65
名)決定

平良 新屋敷
安富 福田
熱田 平数
伊野波 伊保

大学・地域・学校のやりと
りどうあるか

主催 琉球大学・名城大学

論点提供

③ 新屋敷さん

中城村役場 企画課

地創生 8% ... 市町村区域

92% 自然環境保全 南上原のみ

3位 ... 人口増加率

20800人 ... 人口

10700人 ... 人口ビジョン

転入の理由
琉球大学周辺の
設備・環境

子どもの
教育環境
... 高い
ない

琉大を
生かして
いない

県内の高校・大学の進学率 (39.2%)

大学生と関わる
キカイがあれば
選択できるかも

674人 中城南小
438人
33人
260人 中城小

③ 福田さん

琉球大学

学び 実践

教育実習 入学1年~4年

増えつつある
教育学部
1年 140名
2年 190名

半数が
教員へ
100%強

放課後の
居場所
フランク料理
子どもたちの笑顔
学校と地域の
関わり
見えてきた

附属小・中
出身学校
(母校)
新たな実習校

2年生
中城校
の学

1年 2年 3年 4年

一人の同じ
ことを
みている
タネを
つなげた

成長が
見える

近いけど
遠い関係

中城村 琉球大学

ロールモデル
お兄さん・お姉さん
あこがれ 目指したい
琉大生が地域にいる
ことは子どもたちの夢

③ 平数さん

中城中学校

理科 教員の研修 学力向上

担当

大学生が実習にくること

元気づける (仕事が増える)

支援員の部分

日頃から中学生とかわかっている
もって有償実習になるかも

生々しくも充実している

部活指導もしてもらえると助かる

④ 福田さん

学力向上

地域 ... 伸びしろ

部活動 学力向上
放課後の居場所 (部教室)
等は学校ニーズあるのでは

4年生 ... 試験うかっている学生
に参加する

③ 伊保さん

中城中2年

- 琉球大学の中に入りたい
- 大学祭とか休校にしたい
講座みたい
- 教育実習生 ... 小3くらいからお世話
にしている
- 勉強もしてみたい
- 部活に参加してみたい
- 地域行事にも参加してみたい
(運動会・文化祭など)

大学も
まぎれずに
地域へ参加

⑤ 伊野波さん

PTA 委員会

(担い手)
なりてが少なく
なっている

朝の読み書き活動
にも大学生参加している

大学生 PTA

親子DE
学ばせたい
お兄さん・お姉さん
の活躍
等への参加
やうきも
あり

③ 熱田さん

琉球大学大学院
(教職大学院)

中城南小

学校の
仕事多
い

大学生
が実習
に来る

教育実習 ... 1ヶ月ではおこなえない
9月

1年生の実習があるのはいい

大学生は
仕事で
疲れている

⑥ 安富さん

琉球新報
中野支社

中城と取材する中で
琉大がでてくることはない

学力
向上

フランク
活動

継続的
なつながり

中城村
芸大生が
お兄さん・お姉さん
として
教えること
による学習効果

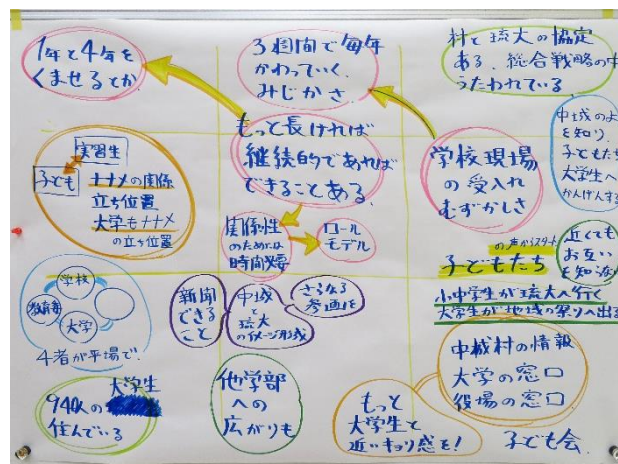
ルール
の発表の
場もあ
るよ

学生の
評価と誰か
のよう
に行うか

学習支援
だけでなく
視点転換

ボランティア
と単位・評価
は関係ない

保険
対応
で対応



・教職専攻以外の学生が小中学校生徒にのりつた方があり、
 ・答のみの学生にのりつた。
 ・部活動指導（サッカー、バレーボール）
 ・授業と授業の交換
 実施

- ・大学のサークル・ゼミ単位での地域イベントの参加
- ・行政側からの声かけ

★地域の子と交流（大学の開放）

★学生がもっと地域活動に関わりをもてほしい。

★大学の地域貢献活動も地元から！

○夏休みなどを

利用して公民館で子ども達に学習支援

村の行事に大学生も参加してもらうような呼びかけ等をする。

1. 授業の設計段階で実習学生
 商品や建物
 教授のナレッジ
 学生とユーザーの意見を取り入れる
 場を設ける
 （コンパニオン・エンジニア）

2. 学生が健康測定している（加齢）→自分の（学生）の経験は

3. 大会時にも参加しては部分生
4. 継続のポイントは、win-win 必要
5. オナセンバシ時の交流
6. 県外の子と交流

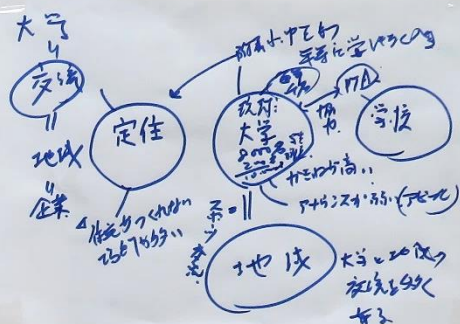
・完全なwin-winはなかなかない

・干渉と関係するイベント

・大学側にイタラシな地域側のような
 教員と学生と
 地域と関係する

・各関係にある関係ないとして
 必ずしも関係する場所や
 交流の場は必要

・Hの学科（群）ではない
 生涯のインターン
 経験・成長などが求められる



SNSも
 活用して
 情報発信!!